

---

# はんぶんこ。

藍沢茉結

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

はんぶんこ。

### 【Nコード】

N1589Q

### 【作者名】

藍沢茉結

### 【あらすじ】

嬉しくて、哀しいの。

叶わないのは知ってる、だけどそれが恋ってもんでしょ？

教室での、甘酸っぱい恋模様。

物だけじゃ、嫌。

——窓際だった。

それはまだ春で、午前中で、柔らかい陽射しが真っ直ぐに私に届いていた。

ねえ好き。

ずっと好きだよ。

届かないんだろうとは思ってる、分かってる。

叶わないなんて知ってるよ。

でもそれが、恋ってもんでしょ？

「ねえ、定規貸してー」

後ろからかけられた声に、私は振り向かないまま返事をする。

「やだよ、折るから」

気づいてる？

貸さない訳ないって事。

絶対負けちゃうの。

「折らねえよ失礼なっ」

「今まで折らなかった事がないでしょー」

ふふっと笑いながら、私はやっと振り向く。

なんで最初はちょっと抵抗するのかって、それはこのくらいの会話がしたかったから。

どんな会話でもよかった。

心がほわわんってあったかくなって、その短い会話だけを頭の中で反芻するの。

…ねえ、すごい好き。

満面の幸せを顔に表す。

表したい訳じゃない、だけど自然に表れてしまう。

「折っちゃ駄目だからね」

言いながら、30cmの折り畳みの定規を手渡した。

「さんきゅっ」

受け取って、すぐさま遊び始める。

…そう、いつもの事。

そしていつもの如く…。

「…あ」

折ったな。

その、文字にすれば一言で。

私はすぐに勘付くの。

「ごめん」

全く悪びれていないように笑って、そう言った。

「あほ」

私も笑いながら、言ってしまう。

何本目か分からない、その定規。

折ったのは、全部君。

それでも嫌いになれないのは何でだろう？

「これ、半分頂戴」

0 c m から 1 5 c m までの方。

折れた半分を私に見せながら、にっと笑う。

「ええー…」

苦笑しながら私はそう言った。

ほんとは、持って欲しかったんだろうな。

だって 1 6 c m から 3 0 c m の方を私が持つてる訳で。

ちっちゃなちっちゃな、本当に小さな日常のペア。

「いいじゃん、お前の物は俺の物」

笑いながら、そんな事を言う。

その笑顔に、負けた。

「…いいけどさ」

「さんきゅー」

持っていた半分を、自分の筆箱の中に入れた。

はんぶんこ。

君と私で、はんぶんこ。

幸せっていう感覚。

…この時は、ね。

3日後くらいに、床に落ちてる半分の定規を見なければ、ね。

「ねえ、これ」

君が持っていた半分。

「は？いらねえよ」

変わらない、半分の定規を私から奪った時の、あの笑顔。

…そうだよね。

そうなんだよね。

気付いてた…でも自惚れてた。

もしかしてって、ちょっとだけ心の隅っこにあったのかもしれない。

だって全然思ってたかったら、こんなに胸が痛い訳ないでしょ？

「だよね」

何で私、それでも笑ったんだろう。

何で私、笑えたんだろう。

ああもう。

好きじゃん。

すごい好きじゃん。

ホント、何で好きなの？

分からない過ぎる。

だって好きな所上げてって言われたって、1つも上がってこないよ。  
何処が好きなのかって、答えられないんだよ。

苦しかったのに、泣きたかったのに、馬鹿って罵りたかったのに。

それでも笑っちゃうんだ。

嫌われたくないからって、今の関係壊れるのが嫌だからって。

めんどくさいって思われたくなくて。

何で好きなの。

何処が好きなの。

ねえ、好きじゃなくなればいいじゃん。

どうしてそれが出来ないの。

——言ったじゃん、「お前の物は俺の物」って。

ねえ、それだけでも嬉しかったよ？

私自身は必要とされてなかったと思う。

それでも嬉しかったよ。

でもね、嬉しかったけど悲しかったよ。

物だけじゃ嫌。

物だけじゃなくて：私をあんたの物にして。

それともやっぱ、私じゃ駄目？

半分に折れている定規を、そっとポケットに入れた。

End：



## （後書き）

はい。

実話です（え

中2だったかな、確かww

実話をもとにした短編を書こうと思いました、しかし最終的に完璧  
実話に↑おい

だからあんまり、語る事ありません^^;

ただね、本当に好きだったよ。

伝えた事はないけど、本当、大好きだったから。

…あはは、恥ずかし（笑）

それでは。

ここまで読んで下さった皆様に、最大の愛と感謝を込めて。

With love…

ありがとうございました!!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1589q/>

---

はんぶんこ。

2011年1月16日01時50分発行